2022-2023年度　国際ロータリーのテーマ　第6回例会

Rotary　イマジン ロータリー

IMAGINE ROTARY

国際ロータリー 第2550地区
宇都宮東ロータリークラブ会報
http://www.ri2550uerc.gr.jp/

会　長　加藤　勝朗　幹　事　塚越　淳史　会報･雑誌委員長　関　元明

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ　例会日 毎週火曜日（12：30～）　事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2964号　2022年8月9日（晴れ）第6回例会　会員数113名

ハイブリッド例会

点　鐘　加藤　勝朗　会長
司　会　副ＳＡＡ　中山会員

◇ロータリーソング「奉仕の理想」
※マスクを着用し、心の中で斉唱
◇本日のランチ　会場にて食事

ビジター紹介　細谷副会長

◇来訪ロータリアン
２名（1クラブ）　累計26,588名
下野上三川RC
会長　沼生　隆様
米山記念奨学会委員長　山本郁夫様
◇卓話者
グローバル補助金奨学生　山田有紗さん
◇米山記念奨学生
ラグワスレン,アマルサナー君

会長挨拶　加藤　勝朗　会長

皆さん、こんにちは。ロータリーが世界に誇れる事業の一つが、留学制度です。高校生を対象とした夏季交換・１年交換留学制度、大学生及び大学院生を対象とした米山・財団留学制度、そして社会人を対象としたＶＴＴ留学制度、すべて給付型の奨学金です。1951 年に初めての財団留学生がアメリカに派遣されています。1954 年には初めての米山留学生を受け入れています。本日はこの歴史ある留学制度の財団留学生山田さんと米山留学生のアマラ君を同時にお招きできました。大変光栄なことだと思います。留学生をサポートすることは、国際奉仕や青少年奉仕の理想であるばかりでなく、将来の社会奉仕や職業奉仕への希望でもあります。何より会員一人一人が若い留学生に寄り添い相談相手になることはクラブの絆を強くします。これからも山田さんアマラ君へのサポート、よろしくお願いします。

◇下野上三川ＲＣご来訪者挨拶
会長　沼生　隆様
皆様、こんにちは。私どもクラブでは、本年度１年間、米山記念奨学生のラグワスレン，アマルサナー君のサブ世話クラブとなります。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。
米山記念奨学会委員長　山本郁夫様
皆様、こんにちは。昨年会長の６月にクラブ変更の手続きをして、下野上三川ロータリークラブと名称が変わりました。下野、上三川の両エリアでの会員増強に努めたいと思います。
◇奨学金の授与
米山記念奨学生
ラグワスレン，アマルサナー君

幹事報告　塚越　淳史　幹事

◇本日18時30分～ ホテルニューイタヤにて
加藤年度第２回定例理事会開催。
◇８月16日は定款第７条第１節（ｄ）による休会。
◇８月23日例会は趣味の会の報告。

委員会報告

◇出席委員会　尾野﨑副委員長
＜皆出席表彰・７月分＞
連続32年　太城　敏之会員
通算14年　菊地　正幸会員
連続13年　片嶋　常隆会員
通算５年　山本　修一会員
連続３年　小尾　　功会員
◇スマイルボックス委員会　炭田委員長
下野上三川ＲＣ　沼生　隆様　山本郁夫様
本日は米山記念奨学生のサブ世話クラブということでお邪魔致しました。よろしくお願い致します。

「３分間スピーチ」

青木格次会員

皆さん、こんにちは。炭田氏より「来週の３分間スピーチは、富士登山の話で宜しく」と頼まれました。先月 20・21 日で富士登山に行ってきましたが、これには枕話がありまして３年前の 70 歳の古希を迎え、思い出作りにと計画しましたがコロナで入山禁止となり断念しました。しかし丁度、読売新聞の浅田次郎氏の江戸から青森までの流人道中記を読んで、「ヨッシャ！富士山ダメ、旅行もダメ、なら歩きの一人旅でなら文句はないだろう！青森まで歩いたろ！陸奥一人旅だ」と７月 18 日に歩き始めました。宇都宮から青森まで 600 ㎞、一日 20 ㎞、約 30 日で歩けるはずでしたが、高速道路の一本道とは違い、登坂もあれば、道も曲がっています。１日毎日 20 ㎞以上は歩きましたが、仙台まで 10 日も掛かり、最終的にはバスや電車の世話になり、何とか 21 日には青森に到着しました…と言う事で富士山に戻りますが、昨年は人数制限で山小屋が取れず、今回は３月早々に中高年の富士登山ツアーに申し込みました。24 名参加でしたが、ツアーガイドさんに「青木さんが最長老だけど一番元気です！」と褒められました。もっとも富士登山に備えて男体山を４回登りました。男体山の方が登山としてはキツかったので、男体山が登れれば富士山は大丈夫です。男体山は 2,480m で、出発の中宮祠が 1,200m ですから高低差約 1,300m。一方、富士山は 3,780 m ですが出発は５合目の 2,200 m で高低差は約 1,600m、男体山より約 300m 高いだけでそう変わりはしません。但し富士山は８合目で 3,200m、雲の上となります。高山病もあり、９合目からは登坂傾斜もかなりきつくなり、体力を鍛えていないと苦しくなります。70 歳の古希を迎えて、一ヶ月間みちのく一人旅、富士登山と、思い出作りが出来ました。ひとえに健康のおかげと感謝しています。

※次回３分間スピーチは入江　武会員

卓　話

「奨学生としてのこれからの目標」

グローバル補助金奨学生　山田有紗さん

皆さん、こんにちは。本日は、貴重な機会をいただきありがとうございます。奨学金をいただくにあたり、沢山の方にご支援をいただき、複雑な手続きも一緒に進めていただきました。ありがとうございました。

-Ｚｏｏｍにて資料の共有（配布も有り）・説明-

本日は、簡単な自己紹介の後、留学国と大学について、研究テーマ、将来の展望についてお話させていただきます。

自己紹介

小中学校の時は吹奏楽部でトロンボーンとクラリネットをしていました。高校では英語ディベート部に入り、そのおかげで英語が話せるようになりました。現在、東京大学の、学校教育をよくするためにいろいろな方法を視野に入れ考えることが軸になっているコースに在籍しています。

留学国と大学について

スウェーデンの国立大学、ストックホルム大学に留学、国際比較教育学の修士課程のコースに２年間在籍予定です。授業の言語は英語ですが、公用語はスウェーデン語なので現在勉強中です。スウェーデンについて個人的に思ったことは、人口が東京よりも少なくてこんじんまりとした国、英語が第一言語でない国の中で英語力がもっとも高い、社会福祉国家、自分の意見を持っていることを大事にしている、民主主義を大事にしている、など、とても素敵だと思っています。また、日本人と似ていて仲良くなれると思うことに、少しシャイで穏やか、飲みニケーション、Ｆｉｋａ（お菓子とお茶）の文化がある、などあります。イケアなど有名企業もたくさんあります。

※ウブサラ大学（新型コロナウイルスで途中帰国）の交換留学時の写真を披露

研究テーマ

研究テーマは『スウェーデンの中学校におけ

る教師の生徒の声の聴き方とその実践-「生徒の参加」概念をもとに-』です。このテーマでスウェーデンでも東京大学でも、修士論文を書こうと思っています。

研究テーマに至った背景をお話します。高校生の時に英語ディベート部に所属していましたが、ディベートというと、論破する、相手を言い負かす、というイメージがありますが、私は、相手の意見を理解した上で自分の意見を表明したり、意見の多様性を学ぶことの楽しさにのめりこみ、高校３年間を過ごしました。同じような経験を子ども達、生徒達に共有したい、という気持ちで、日本の中学校に、大学の研究の一環で行かせていただきました。学校の校則でディベートをした時、校則は沢山挙げますが、それに対してどう思うか聞くとシーンとしてしまいました。このことに興味を持ち、生徒の意見を教育の中で聞く、というのはどういうことなのだろうと思うようになりました。スウェーデンは子どもの権利を守ることや、子どもの意見を聞くことを大切にしている、ということを文献で知り、交換留学でウプサラ大学にいかせていただきました。ここで、先生が生徒の考えを尊重しようとする姿勢を徹底しているところにもの凄く刺激を受けました。学術的に説明することで日本の教育に生かせることがあるのではないかと思い、東京大学に進学して「生徒の参加」という概念に出会いました。「生徒の参加」という概念は、国連子どもの権利条約の第12条に「子どもが意見を聞かれる権利」がベースとなっている概念のようです。生徒を一人の意思決定の有能な主体であると捉え、生徒の意見が彼らの発達段階に応じて聞かれ、考慮に入れられるべきであるとする、という考え方です。この概念は、私がスウェーデンの現場で見てきたことと凄く近いと思いました。スウェーデンでは「生徒の参加」がどのように理解されているのか調べました。

・「子どもの権利条約」をいち早く採択した国
・カリキュラムにも明記されており、学校庁主体でレビュー論文も発行されている。研究者による達成条件や意義などに関する実践的な研究が蓄積されている
・スウェーデン学校庁は「生徒が彼らに関しての意思決定に影響をもたらせることと、生徒が学習過程においてアクティブになること」と定義している。

スウェーデンの中学校での生徒の声を聞く、という行為がどういう意味を持つのか、どのように生徒に受け止められているのか、深く理解していく研究にしていきたいと思っています。

将来の展望

留学後の進路希望は、日本の中学校で英語教員をさせていただきたいと思っています。実際に学校の先生になる経験が大事だと思っています。そこからさらに研究テーマを深めた上で博士課程に進む、スウェーデンの大学院に行きたいと考えています。最終的には、なんらかの形で教員養成など、学校の先生方と一緒になってその学校をどうしたらよくしていけるのか考えていけるような立場に、大学に席をおいてなりたいと思います。素晴らしい方達、温かい方達にご支援いただいて留学させていただけるということを忘れずに、留学期間中、勉学に励んでいきたいと思います。